

受託研究 国立研究開発法人水産研究・教育機構 所蔵古文書の目録作成業務

期間：2001年度より継続業務。ただし、2020年度は受託研究の契約はせず

[所員] 安室 知 前田禎彦

「漁業制度資料」整理の中長期計画の見直し

越智 信也

水産研究・教育機構は2020年7月に組織再編が行われ、旧来の中央水産研究所は水産資源研究所へと改称された。また、2020年3月にWHO（世界保健機関）により新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミック宣言が出されて以来、大学の授業も原則的にオンラインによる開講となり、学部生・院生の参加による古文書整理作業ができない状況となったことから、2002年以来行ってきた受託研究としての業務は、今年度については中止とせざるを得なかった。昨年度からの継続作業として、2019年度までに写真撮影・古文書目録作成・解題原稿作成等の基本的な作業を終え、2度の現地調査を経て目録の一次原稿まで終了していた「和歌山県関係史料目録」は、その後何度かの校正作業を経て、11月には校了となった。2021年2月に和歌山県湯浅町で行われた現地学習会（オンライン）において、当目録集に掲載されている「松宮太郎兵衛家文書」について、特に湯浅町で近世期以来行われていた漁網製造に関して報告を行った。

例年行ってきた整理作業はできなかったものの、この間担当職員が何度か水産資源研究所図書資料館に出向き、館長の岡慎一郎氏と今後の作業の中長期的な見通しについてディスカッションを行



写真1 和歌山県下津町の資料調査（2015年）



写真2 和歌山県湯浅町の伝建地区の調査（2018年）

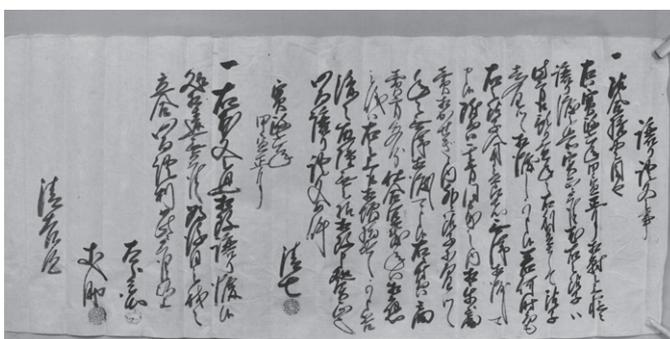


写真3 和歌山県湯浅町の松宮太郎兵衛家文書



写真4 水産研究・教育機構所蔵古文書目録（2020年刊行）

う機会を持てたことは有意義であった。向こう5年間（2020年度～2024年度）で、水産資源研究所図書資料館が持つ古文書の目録作成業務に一定の目途をたてる方向で、双方で検討した。

同図書資料館が保管する「漁業制度資料」は、筆写稿本と古文書に大別することができるが、これらの資料の整理は、当初中央水産研究所（当時）と常民研との共同事業として、1995年3月「中央水産研究所所蔵古文書の整理等共同業務覚書」にもとづいてはじめられた。その後、前述の通り2002年より受託研究となり、年度ごとの契約にもとづいて目録作成業務が継続されてきた。これまで作成した目録は2冊の概要目録を含めて14冊に達しており、依然として詳細目録が刊行されていない資料群も、大半が1,000点を超える一括資料群となっている。これらの資料群は近世資料を多く含んでいるため、共同研究プロジェクトによって取り組むことが効果的との判断から、まずは1,000点に満たない資料群について、5年間を目途に目録化を進め、残る大口の資料群については将来の共同研究による整理に委ねることを検討している。

今後の状況の推移を見つつ、「漁業制度資料」の資料化に向けてさまざまな方法を検討したいと考えている。

■ 2020年度の活動

- 2020年度～2024年度に関する打合せ 2020年9月3日、2021年2月18日 水産資源研究所図書資料館 越智信也
- 目録原稿の校正作業 2020年10月～2021年2月 織田洋行・相原隆一・越智信也